

カトリック 仙台教区報

2016年3月6日

No.228

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014

仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://www.endai.catholic.jp/>

いつくしみの特別聖年

2015・12・8

～2016・11・20

「忍耐強く、いつくしみ深い」。これは、神の本性を表すために旧約聖書を通して何度も言及されている、対になったことばです。神がいつくしみ深いことは、救いの歴史の中の多くの出来事に具体的にみることが出来ます。そこでは、神のいつくしみが、罪や破壊に勝っています。とりわけ詩編は、神の振る舞いのこうした偉大さを前面に出します。

(いつくしみ特別聖年大勅書6)

東日本大震災から5年

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から丸5年になります。3月が近づいてくると、否応なく心の乱れは増幅します。

政府は昨年(2015年6月)、2017年3月末までに「帰還困難区域(年間被ばく量50ミリシーベルト超)」以外の「居住制限区域(同50～20ミリシーベルト超)」「避難指示解除準備区域(同20ミリシーベルト以下)」を解除し、帰還させる方針を決定し進めてきました。

年間被ばく20ミリシーベルト以下の地域は、健康上生活をして大丈夫という「科学的根拠」がどこにあるのかは、専門家でないので分かりませんが、南相馬市原町区の一部と小高区は、今年4月1日に解除となります。



南相馬市原町区での除染作業

他の市町村も順次政府の方針に従って帰還をさせることになるでしょう。一方で政府は、山林はもう除染

をしないなど、信じがたい方針を打ち出したのも、関心をお持ちの方には記憶に新しいことと思います。(この件に関しても後に里山だけは除染する方針変更)。

また、県民健康管理調査の甲状腺の検査については、甲状腺がんと診断され、余儀なく手術を受けた子どもたちが100人を超えているにもかかわらず、県の対応はあまりに不誠実と言わざるを得ません。なぜ子どもたちの健康をなやがしるにしようとするのでしょうか。

このような現状に対する市民の不安の声は、「復興を声高に言う諸々のことにかき消されているように感じています。

今年、「第3回いのちの光3・15フクシマ」の集いは、これまでに声を上げることも出来ず、機会にも巡り合えずにきた方々からお話を伺うことにしました。また「ふくしま共同診療所」で被ばく医療に携わっておられる医師の講演も予定しております。貴重な機会であり、多くの方々の参加をお待ちしています。(日程等4頁参照)

節目の丸5年ですが・・・今、福島では・・・
第3回「いのちの光3・15フクシマ」実行委員

勝治 美喜子

生命の泉

毎日のニュースには明るい話題はほとんどない。記事になるのは国内的には事件や事故、海外では各地に起きている紛争だ

▼2月7日の北朝鮮のミサイル打ち上げ

訓練も意味が悪い▼作家の辺見庸は「もう戦争がはじまっている」と言い、「今の局面はすべてが翼賛化していった1930年と似ている」という▼これは与党が多数を占めて安保法制を通したことと世論の右傾化を指しているのだから

▼政治学者吉田徹によると、「英国において野党に下駄を履かせて与党との対等な議論をさせる制度になっている」そうだ。日本において「英国流の二大政党制を輸入したが、その制度を支える思想は根付かなかった」▼多数の人に支持されているのだから審議も尽くさずともその意向に沿って進めることは当然ではないかというのは「皆で渡れば怖くない」式の発想であり短絡的だ

▼イエスを死刑に決めたサンヘドリン(70名から成るユダヤの国会兼最高裁)には「全員一致の議決(もしくは判決)は無効とする」という規定があった。「全員一致は偏見か興奮によるもの」だからだし、その決定の正当性を検証する方法がないことになるからだ。賛成・支持が100%というのは嘘くさい▼ヨーロッパ13世紀にイタリアのボローニャに時の教皇のお声がかかりで大学が出来た。そこでは学問にこそしむ者には自由と自治が保証され、「よそ者」「無産の穀潰し(くぐぶし)」という嫌がらせを受けたりしないように「聖職者」の身分が与えられ保護されたという。「この自由が大学に保証されていなければ、後にプロテスタントも、カトリック改革も、知識人の脱宗教も、無神論さえ生まれなかっただろう」(竹下節子)▼正義を求めることも真実を理解する方法も私たちの限界を少しでも乗り越えようとして積み重ねられてきた知恵だ▼一見揉めているように見えても少数意見が指摘することは大勢が見逃している大切な部分を埋めてくれる。(守)

2016年度司祭派遣人事

【第3地区】

イグナチウス・インセン・クリスティー

アヌス・バサ(神言会)

田中 丈夫

(協力) アントニオ・ツゲル

(週末協力) 小松 史朗

(第5・第6地区協力)

【第4地区】

川崎 忠紀 佐藤 守也

高橋 昌

エドガル・ガクタン(淳心会)

(第5地区)

會津 隆司 川井 啓

森田 直樹(京都教区)

レイモン・ラトゥール(ドミニコ会)

(協力) 十井 勝吾

(協力) 佐々木 博(第2地区)

渡辺 彰宏 小野寺 洋一

ニコラス・ニコ・コンディ(神言会)

(第3地区)

狩浦 正義(名古屋教区)

(協力) 十井 勝吾(協力) 佐々木 博

(第7地区)

シヤール・エメ・ボルデユック

(ケベック外国司教会)

トマス・パヴェレット(ドミニコ会)

【第8地区】

板垣 勤

フアオリシ・チエスワフ(ドミニコ会)

エミール・エメ

(ケベック外国司教会)

【司祭の家】

鷹鷲 達衛 横島 健一

(司教館付)

氏家 和仁

和野信彦(横浜教区へ出向)

ホセ・ゴンザレス

(グアダルペ会)

グアダルペ会本部へ

ポール・ト

(ケベック外国司教会)

ケベック外国司教会神学院

(ケニアへ)【第1地区】

ギヤリー・グストウエオ(淳心会)

淳心会本部へ(姫路)【第2地区】

『2016年度の司祭人事異動にあたって』

司教 平賀 徹夫



フランシスコ教皇様はいつくしみの特別聖年公布の大勅書12番で、「教会には、神のいつくしみを告げ知らせる使命があります」と言明しています。その少し前、10番では「教会の生命を支える柱は、いつくしみです。教会の司牧行為は、すべてが優しさに包まれていなければなりません。優しさをもって信者に語りかけるのです。教会が世に向けて語るどんなメッセージにもどんなあかしにもいつくしみが欠けていてはなりません」と教えています。この「教会の使命」は、教区がどのような状況であっても、わたしたち仙台教区も担っています。主の助けと導きを願いながら、司祭・信徒・修道者、祈りの心と力を合わせて進んでいきましょう。

さて、仙台教区が地区制を採用して3年目となるいまの司祭配置の状況は、今まで経験したことのない大変困難なものです。地区制導入時には、原則3年間は司祭の異動なしでと考えていました。それが、2015年度中に舟山亭師の急逝をはじめ、ほかにも3人の宣教会・修道会の司祭方がその会の人事で仙台教区から離任せざるを得なくなりました。一方、教区外からどなたかと期待していた司祭派遣は、年度始めからは望めないことになりました。新年度は4人少ないままでスタートせざるを得ません。

地区制を採ったのは、できるだけこの教会でも主日のミサがあるようにと望んでのことでした。そして司祭方には、主日は3カ所でのミサも普通のこととなるほどに頑張ってもらいました。が、新年度はそれも難しくなり、さらには司祭方の健康状態等によっては、主日のミサがないという教会が増えることになるでしょう。

信仰の恵みを 頂いているわたしたちにとって、主日の礼拝集会は、共に信仰を養い、共に神のいつくしみを味わう大切な場です。ミサがない場合の対応は二つ考えられます。一つは「近隣教会のミサへの参加」で、まずこれが勧められます。その二は、近隣教会が近くにない場合の「司祭不在のときの集会祭儀」です。教区の皆さん、どうか家庭での祈りと主日の礼拝集会を守ることを語り合い、励まし合ってください。



横島 健二 神父 (76)

金祝(50年)



鷹鷲 達衛 神父 (87)



川井 啓 神父 (90)

ダイヤモンド祝(60年)

おめでとうございます



氏家 和仁 神父 (53)



小野寺 洋一 神父 (53)

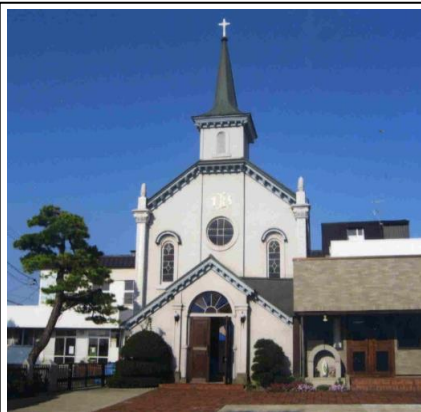
銀祝(25年)

カトリック中央協議会の発表によると全国で司祭叙階60周年(ダイヤモンド祝)を迎えた司祭は、20人、50周年(金祝)34人、25周年(銀祝)19人

司教日程

3月・4月

- 3・1 仙台白百合学園
- 3・2 子どもの人権フェスティバル 社会司教会
- 3・3 主のための24時間
- 4・4 部落差別人権委・春季台宿
- 5・5 司祭評役・教区司祭団役
- 8・8 東日本大震災被災地(大槌)
- 11・11 「いのちの光3・15ふくしま」
- 15・15 NPOカリタス釜石 教区財政評
- 17・17 宣教司牧評・役員会
- 19・19 受難の主日
- 20・20 学校法理学会
- 22・22 聖香油ミサ
- 23・23 郡山ザベリオ学園 主の晩餐
- 24・24 主の受難
- 25・25 復活徹夜祭
- 26・26 復活の主日
- 27・27 責任役員会
- 28・28 部落差別人権委・事務局会議
- 30・30 仙台白百合女子大
- 4・2 八戸聖ウルスラ学院
- 8・8 司祭評役・司祭団役
- 12・12 須賀川教会献堂式
- 17・17 司祭団月例会
- 25・25 全ベニス会議 サポート会議
- 27・27 カトリック学校教育委員会
- 28・28 29



弘前教会(第1地区)

弘前市百石町小路20

電話 0172-33-0175

主日のミサ 9:30(第3・第5主日は前日土曜午後18:30)



カテドラル (元寺小路教会)

仙台市青葉区本町1-2-12

電話 022-222-5507

主日のミサ 7時・9時30分・18時



いづくしみの特別聖年 仙台教区巡礼教会

教皇フランシスコは
勅書「イエス・キリス
ト、父のいづくしみの
み顔」を発表し、第二バ

チカン公会議閉幕50周年にあたる2015年12月8日から2016年11月20日までを「いづくしみの特別聖年」とすると公布しました。その大勅書の第3項と第14項に巡礼と巡礼教会(巡礼所)についての言及があります。
平賀徹夫司教は仙台教区における次の9教会を巡礼教会と指定されました。



水沢教会 (第4地区)

奥州市水沢区川端191-1

電話 0197-25-7707

主日のミサ 9時



四ツ家教会(第3地区)

盛岡市本町通2-12-25

電話 019-654-0557

主日のミサ 9時・18時



十和田教会 (第2地区)

十和田市稲生町12-14

電話 0176-23-2561

主日のミサ 10時



野田町教会(第7地区)

福島県福島市野田町2-7-1

電話 024-534-4686

主日のミサ 9時



原町教会(第6地区)

南相馬市原町区橋本町1-15

電話 0244-23-3713

主日のミサ 10時



古川教会(第5地区)

大崎市古川東町5-35

電話 0229-23-7300

主日のミサ 10時



大籠教会 (教区管理)

岩手県東磐井郡藤沢町大籠

字上野66

連絡先は仙台教区事務所

022-222-7371

聖年に与えられる「免償」について。
免償とは、(ゆるしの秘跡)です。すでにゆるされた罪に伴う有限の罰の免除(軽減)です。免償を受けるための条件。
①信者は、真の回心を心の底から望んでいることの現れとして教区司教によって指定された教会への巡礼をすること。
②神のいづくしみに深く心を寄せながら、ゆるしの秘跡を受け、ミサにあずかること。
③その秘跡を受けるときには、次の③、④、⑤を伴わせること。
③信仰告白。④教皇フランシスコのための祈り。⑤教皇が教会と全世界の幸せのために心に抱いている意向のための祈り。

*カテドラル(元寺小路教会)以外では、時間帯によっては司祭不在で、ゆるしの秘跡を受けられなかったり、聖堂が閉まっていたりして聖体訪問もできなかったりということもあります。巡礼される場合は事前に連絡をとって状況をご確認の上お出かけください。主日のミサ時間も変更することがあります。

地区だより

Ⅱ第5地区Ⅱ
石巻・古川・塩釜・北仙台
・西仙台・東仙台

合同堅信式

東仙台教会、塩釜教会で開催

司教さまの病気により延期されていた第5地区の合同堅信式が、東仙台教会（10月18日）と塩釜教会（11月22日）

の2日に分かれて開催されました。それぞれの教会において、厳粛な中にもアットホームな雰囲気、東仙台教会では12名の方が、そして塩釜教会では9名



塩釜教会の堅信式

の方がそれぞれ受堅されました。受堅された方々から、感想をいただきました。

石巻教会

◎神の助けにより受堅の夢がかなえられ、心の幸いを感じております。

◎皆様の温かなお支えとお祈りに心から感謝します。ありがとうございます！

北仙台教会

◎皆様、たくさん

さんの祝福ありがとうございます。幼い頃から神父様、教会の皆さんに見守られ、この度無事に堅信を受けることができました。R・ジョリコール神父、F・パリゾー神父をはじめたくさんの方のサポートのおかげで、お世話になりました。ありがとうございます。

西仙台教会

◎頭で考えるのではなく、カラダで感じとる…そんな体験が最近あり、堅信を迎える準備が神様がくださったのかな？と感じました。堅信の秘跡を受け、新たに信仰の旅が始まります。私なりに、ゆつたりとバランスを取りながら歩んでいきます。

◎一生のうち、式なんてこれが最後だと思うし、7つのお恵みを期待して、これからも頑張ろうと



東仙台教会の堅信式

思います。何も変わりがないのが一番いいのかも!!

東仙台教会

◎今回の堅信式では緊張しましたが、無事終えることができました。

◎司教様から堅信のお祝いのカードも頂き、とても嬉しい気持ちになりました。

◎神様の教えを心に留めていきたいです。ありがとうございます。

◎ありがとうございます。心新たに頑張ります!!

◎幼児洗礼と違い、新たに神様を感じる事が出来ました。ありがとうございます。

◎ここから、新たな気持ちで進んでいければと思います。

◎本日は、皆さまにお立ち会いたいただきありがとうございます。これからも末永くよろしくお願ひ申し上げます。

◎今日与えていただいた大きな恵みに感謝します。この日のことを深く心に留め、これからは、いただいた聖霊の賜物を意識して歩んで行きますように。

◎皆が緊張していたけど、神父様が優しくしたので落ち着いて堅信を受けられたかと思えます。

◎緊張しました!! 堅信を受けられて良かったです!!

◎とても緊張しましたが無事に受堅できて良かったです!!

塩釜教会

◎たくさんの方々に祝福していただき、とても感謝しています。

◎そして、堅信を受けることができて嬉しかったです。これからもよろしくお願ひします。

◎今日、堅信を受けることができてよかったです。皆様に感謝、神に感謝。

◎今日、堅信を受ける事ができ嬉しく思います。ありがとうございます。

◎堅信式を終えて、自分もやっとなキリスト教徒の一員となりました。そして、もつと神様を感じる事ができました。

◎ここから、新たに信仰について学んでいければいいと思います。

古川教会

◎緊張しながら、堅信を受けました。司教様の挨拶から、私のところが、全て愛に感じることができ、教会のみなさまを家族のように感じ、私自身もとても幸せな気持ちになりました。

Ⅱ第6地区Ⅱ

元寺小路・二本杉・豊屋丁・八木山・大原・亘理・角田・白石・原町

第6地区では、教区研修会の実施に向けて実行委員会を立ち上げ、計画を練っている。1月16日(土)に行われた第1回の実行委員会以下のような概要で実施すること話し合った。
なお、テーマ・サブテーマにつ

告知板

◆いのちの光 3.15 フクシマ

～チェルノブイリから30年、フクシマから5年
現実を切断する私たちから、連帯する私たちへ～

日時： 3月13日(日) 13:00-15:30(開場：12:00)
場所：コラッセふくしま 多目的ホール(福島市)
プログラム

13:00 講演「不安を抱える声を聴き続けた医師の想い」
講師：布施 幸彦

14:15 シンポジウム 参加費：500円

～ミサ～

日時：3月15日(火) 14:00-15:15
場所：カトリック原町教会(福島県南相馬市)

いて、各教会で話し合い、それをもとに次回の実行委員会で見解発表のテーマや、発表者の人選を進めて行くことにした。

◆教区研修会(第6地区) 概要

1. 開催日時：2016年9月18日(日) 10時～15時
2. 開催場所：元寺小路教会
3. テーマ：「家庭における私の信仰」サブテーマ：「次の世代に伝えること」
4. プログラム概要

○午前：信徒からのテーマに沿った意見発表(3、4人)を行い、それを踏まえてまとめを兼ねて基調講演を行う。

○昼食：(交流会)をはさみ

○午後：司教ミサ

○第6地区大会とし、各小教区の紹介を取り入れた交流の場とする。

○子どもたちの集まりを持つ。

福島に新しい修道院 聖母訪問会 檜葉修道院

どつどつとくー檜葉町に来ました！

昨年の11月1日、聖母訪問会のシスター4人が、福島県檜葉町に修道院を開設した。彼女たちは2011年から米

川ベースの近くに共同体を開き、2014年までベースでの活動を支えてくださっていた。

その後、福島の原子力発電所の近くに修道院を開きたい、と色々住居を探した



が、今回、福島県双葉郡檜葉町にふさわしい住居を借り「檜葉修道院」を開設し、院長であるシスター藤原を含む4人のシスターが正式に派遣された。

檜葉町は、原発の爆発事故後、避難指示が出され、全住民が避難せざるをえなかった町。2012

年8月10日、避難指示解除準備区域となり、立ち入りはよいが宿泊は禁止という状態になり、2015年9月5日、避難指示解除が宣言された。

しかし、2015年10月21日現在、檜葉町住民で帰

還した方は、全町民の約3%にすぎない321人。そんな中、この4人のシスターは11月1日、住民票を移し、檜葉町民となった。

「原発の近くに身を置きながら、住民の方々の痛みを感じながら、祈りで癒していきたい、共に住んでいきたい、というのが私たちの願いです」。

「ここには、人が住んでいない家がたくさんあります。そこに住んでいらつしやった人々が、ここにはいらつしやらないということの痛みを感じながら、その人々のために祈っていききたいと思ひます」。

「また、土との和解も考えています。土は命を育むものです。地

主さんから畑を借り、春から徐々にEM菌を入れながら土を元気にしていき、野菜などを作っていきたいと計画しています」。

4人のシスターたちは、いきいきと笑顔にあふれ、「楽しさ」を会う人に感じさせるその生き方で、檜葉の人々を力づけ、励まし、支えていけることだろう。

仙台ロゴス公開講演会 「ソーシャル・ネットワーク が拓く新・福音宣教」

2月7日(日)、北仙台教会で講師にシグニス・ジャパン・カトリックメディア協議会の副会長、土屋至氏(写真)を迎え開催された。参加者33名



メディアを通して福音宣教に取り組んでいるシグニス・ジャパンでは、インターネッ

トのセミナーや教会ホームページの作成支援などを行っている。

講演は福音を「述べ・伝える」とは、「信仰者の社会生活」とは、どういう事か、という最も根源的な事について触れた。社会生活を営む中で周りの友人・知人などに、少しずつ福音やキリスト教的な考え方を広げていく、分かち合いが大切である。その一つの手段としてソーシャル・ネットワーク・システム(SNS)があり、特に若い世代では、盛んに使われている。SNSには、フェイスブック・ツイッターなどがあり、スマートフォンやタブレットを通



仙台ロゴス公開講演会

ハンセン病問題と仙台教区 人権を考える委員会

松丘教会の歩み(2)

松丘の信者は、伝道館の建設にあわせ、ルルドを自主的な奉仕作業でつくりました。聖母像は信者の原寅雄氏が夫人の失明の回復を希って寄進、洞窟に安置し程なくして夫人の片目が見えるようになったそうです。信仰生活では、レジオ・マリエ、オヂリア会、フランシスコ第三会を3本柱としていました。

レジオ・マリエは1954(昭和29)年5月、小林仙台司教が来訪し、信徒の布教活動の必要性を話され、数名が応じ始めました。未信者である友人たちを教会へ誘うことから始め、盲人への読書、病人の看病、パンフレットの配布、

遠ざかっている信者の訪問などの働きを行い、1960(昭和35)年に集会第300回記念、1982(昭和57)年には集会1350回を迎えました。

オヂリア会は盲人信者が1964(昭和39)年12月13日聖オヂリアの祝日に会員26名で発会式を挙げました。盲人の聖人オヂリアの苦難の生涯と聖徳を学び模範とし、その御保護も願って盲人同志が互いに助け合って頑張つてゆこう、病苦と祈りを捧げて信仰を強め合おうと、毎月1回の定例祈禱会を行い恩人のために祈ること、家庭訪問と病棟見舞いをする、晴眼者の協力で週2回の読書会と聖歌練習をすること、互いに親睦を深めるため野外集会を催すほかに随時集会を持つなどの活動を行い、祈りの集団として信仰の中心的役割を果たしてい

ました。

フランシスコ第三会は1964(昭和39)年10月、本田守男先生の勧めにより10名の志願者が集まり、ボリユー神父の指導を受けつつ1965(昭和40)年1月10日に着衣式男子3名、女子8名が行われ、1966(昭和41)年1月13日に小林仙台司教より第三会の正式認可を受け、松丘兄弟会(クララ会)として正会員の誓約を果たしました。毎月第一水曜日の定例集会でフランシスコの信仰と模範について研究を深め、清貧と忍耐そして平和の精神を養うよう励み、日常は病人の見舞い、欠席者の訪問、教会墓地の清掃、盲人会員への朗読などの奉仕を行っていました。

参考：「丘の星 宣教50・献堂25周年記念誌」松丘カトリック教会 1982(昭和57)年発行



盲人信者たちは聖母像を拝み、ともに祈禱で集会した。(昭和40年)



新築に身をまつて新しく在座するフランシスコ第三会会友たち(昭和40年)



信者の手でつくられたルルド(昭和38年)

このようなメディアを使って信徒の宗教体験や、地域での教会活動などをぜひ発信してほしいと強調した。

「日本のマザー・テレサ」 佐藤初女さん帰天

弘前教会信徒の佐藤初女(はつめ)さんが2月1日、乳がんのため入院していた弘前市内の病院で帰天されました。(94歳)葬儀は2月6日、弘前教会で行われました。2月23日には追悼ミサが明の星学園聖堂で行われました。

佐藤初女さんは、1921年青森県生まれ。青森技芸学院(現・青森明の星高等学校)



心をこめて「おむすび」を握る初女さん

卒業。小学校教員を経て、1979年より

弘前染色工房を主宰。老人ホームの後援会や弘前カトリック教会での奉仕活動を母体に、1983年、自宅を開放して『弘前イスキア』を開設。1992年には岩木山麓に『森のイスキア』を開く。助けを求めるすべての人を無条件に受け入れ、食事と生活をとにもする。病氣や苦しみなど、様々な悩みを抱える人々の心に耳を傾け、「日本のマザー・テレサ」とも呼ばれる。

1995年に公開された龍村仁監督の映画『地球交響曲(ガリアシンフォニー)第二番』で活動が全世界で紹介され、シンガポール、ベルギーほか国内外でも精力的に講演会を行う。日本各地で「おむすび講習会」を開くとすぐ満員になる盛況ぶり。アメリカ国際ソロプチミスト協会賞、国際ソロプチミスト女性ボランティア賞、第48回東奥賞受賞。2013年11月の「世界の平和を

祈る祭典 in 日本平」でキリスト教代表で登壇。チベットの仏教最高指導者のダライ・ラマ法王と初対面。その際、おむすびをふるまう。『おむすびの祈り』『いのちの森の台所』(以上、集英社)、『朝一番のいいのち』(女子パウロ会)、『愛蔵版 初女さんのお料理』(主婦の友社)、『いのちを養う食』(講談社)など著書多数。

佐藤初女先生との出会い (Wikipediaより)

須藤 誠子(弘前教会)
今から、かれこれ40年前になりますが、故デューメン神父様の聖書会員全員がガールスカウトのリーダーになりました。それから活動を通して初女先生の指導を仰ぐことになりました。弘前市の行事や国際交流、キャンプ等です。ガールスカウトのモットーは「そなえよ、つねに、三本の柱は、自然と共に、人との交わり、自己開発です。それを生活に取り入れ、実践していました。



岩城山麓の「森のイスキア」



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

青森明の星中学・高等学校同窓会長、藤聖母園大清水老人ホーム後援会長、ガールスカウト日本連盟顧問等をされ、自宅では、ろうけつ染め作品を製作、指導の毎日でした。



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

初女先生は命の恩人です。病氣の時に看病してくださり、その後もいろいろな気遣ってくださいました。



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

「弘前イスキア」では700人を超える、病氣や悩みをかかえた人々を招き入れ、自然の中で、この活動を展開し、多くの方々賛同を得て、「森のイスキア」の開設に到りました。



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

テレビ出演、講演会、おむすび講習、出版等、「食は命」のメインテーマで、参加者と共に生きる喜び、苦しみ、悲しみを、分かち合ってきました。先生の生活を通して学んだことをお伝えします。



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・うめぼしとおかゆ(自分が食べるものを分け合う)



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・十字架の苦しみ(神の招きに答える)



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・一人ひとりのタレントを生かす(神の賜を見抜く)



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・気づき(本人が気づくのを待っている)



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・みんなといっしょに食事をする(最後の晩餐―これこそが唯一の望み)



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・受け入れる(相手の心に共感する)



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・「母の心(すべてに通じる神の愛)



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・先生が生きている時は、初女先生と呼び、亡くなって合掌した時には心の中で、思わず「かあさん!!」と叫んでいました。



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・今も全国や海外に初女先生を心のお母さんと慕っている方々が大勢おられます。



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・一人ひとりの心の中にまかれた種がぐんぐん伸び、その生き方をまわりの人に伝えて、生きる力と励ましとなりますようにお祈りいたします。



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・「佐藤初音さん語録」



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・「人は一人では生きられません。誰かと一緒に生きるられます。その誰かというのは、実は一人ひとりの中に宿る神様なんです」



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

・「私は、今を生きていることしか考えていません。今を生きていることは死につながっているのですから、特別なことを考えずに、今を大切に生きています」



わたしたちの日ごとの糧を・・・

賞味期限が迫っている等の理由で大量の食品が廃棄され、さらにそれを横流しして問題になった事件がありました。「もったいない」の気持ちと「食の安全」を考えると複雑な思いがします。それにしても、ありあまるほどの食品に囲まれている「わたしたち」。

一方で、世界に目を向けると、栄養が足りずに死の淵をさまよう子ども、内線やテロを逃れて腹を空かせてさまよう難民、などのことを思うと心が痛みます。

主が教えてくださった祈りの中に「わたしたちの日ごとの糧を、今日もお与えください」のフレーズがあるのは、どうしてだろうとあらためて考えてみたいと思います。

今日、食べるものがない、腹も心も満たされない世界中の人々に心を寄せて「神のいつくしみ」が救ってくださるようお願いながら「日ごとの糧を、今日もお与えください」と祈りたいと思います。

地球を大事にする会 岩井 誠

「神のいつくしみ…私の家族の絆」 第38回聖霊による刷新東北大会

今回の聖霊による刷新東北大会は、10月23日～25日に仙台市で行われました。

時を同じくしてシノドスが「家庭」をテーマにして開催され、また12月からいつくしみの特別聖年が始まるうとしている中、大会はその恵みの時に向けてのプロローグのようでした。大阪教区在住の畠基幸神父（御受難忌が指導してくださいました）。

講話は教皇フランシスコの大勅書「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」をテキストとし、わが子のことではらわたがちぎれるほどの神のいつくしみを十二分に味わわせるものでした。私たちも兄弟姉妹に同じ思いを抱くよう導かれました。

また、世界病者の日教皇メッセージ「心の知恵」が取り上げられ、肉親の家族から洗礼によってまことの家族となった私たちの心の指針が与えられました。

小グループを中心にして癒し、聖霊の満たしが行われ、分かち合い、祈り合うことによって皆の絆が深まりました。

大会の終わりには、聖霊によって一つの家族となった喜びが感じられたことを神様に感謝いたしました。



畠 基幸神父

今年も畠神父より同神父が主催する百日連続連帯共同祈願ミサの献金が東日

本大震災被災地へ寄せられましたことをご報告いたします。（実行委員 京野啓子）

「参加者の証し」

◎聖霊刷新東北大会は、今回で2回目の参加でしたが、前回とは全く違った、受け止め方が出来ました。

参加者との分かち合いも、とても心に響きました。畠神父の講話は、第23回「世界病



聖霊刷新大会中のミサ（仙台市太白区「茂庭荘」にて）

者の日」教皇メッセージから、ヨブ記の一節「私は見えない人の目となり、歩けない人の足となった」について「心の知恵」という視点で考えてみましょうとのことで、「心の知恵」について、とても分かりやすく話して下さいました。心の知恵とは、1. 兄弟姉妹に仕えること、2. 兄弟姉妹と一緒にいること、3. 自分自身から出て、兄弟姉妹のもとに行くこと、4. 兄弟姉妹を裁かずに、彼らと連帯することです。と教わりました。私が一番難しいと思ったのは、4番です。日常生活の中で、気付かずに、他を裁いてしまうことが多いと思うからで

す。自分中心の思いから抜けきれずに、苦しくなることが多い私にとって、神様の御心を知り、御心に添って生きて行くことが最善の道なのです。そのために、今、生かされ生きていると思います。イエス様の様に生きて行きたい。すべてのことに喜び、感謝し、祈りなさいと教えて頂いている私たちは、幸せです。3日目の聖霊の満たしにおいて、畠神父から、暖かいものが満ち溢れ、神様の愛に包まれたように感じ、喜びと感謝で、涙が止まりませんでした。素晴らしい時間を過ごさせていただき、会の準備から運営、片付けまで、お世話をしてくださった、兄弟姉妹の皆様に、深く感謝いたします。（仙台市 M）

とができました。今回のテーマは「神のいつくしみ…私の家族の絆」でした。最終日のミサでは、「福音に登場した盲人について、「自分のことばかり見て、周りが見えない人」とも言えるという神父様のお話があり、心に残りました。私自身が神様の絶え間ないいつくしみにも家族の絆にも鈍感であったように思え、この盲人のように癒され、自分も周りが見えるようになりたいと聖霊に願うことができました。埼玉から仙台に移り住んで1年を迎えた10月、気づけば仕事と生活に追われる日々でしたが、こうして聖霊に満たされ賛美と祈りのうちに過ごす週末が与えられたことは大きな恵みだったと感じています。（仙台市 A）

◎大会は初めての参加です。皆さんの熱心さに圧倒されました。祈りの力を体験することができました。（仙台市 H）

「2016年四旬節・回心と祈りの集い」 主にささげる「24時間」

～私が求めるのはあわれみであって、いけにえではない～

マタイ 9・13

フランシスコ教皇は、昨年に続いて今年も全世界の教会に「主のための24時間」を呼びかけておられます。

3月4日～5日に全世界の聖堂で、人々の告解を聴き、聖体顕示と祈りの時間を持つことを願われています。

これを受けて、仙台教区では、平賀司教は、各地区において、それぞれの祈りの時を持つことを勧めておられます。

カテドラルでは、下記のような祈りの集いを持つこととなりました。皆さんのご参加をお待ちしています。また、参加できない方も同じ意向でお祈りいただければ幸いです。

記

日時：3月4日（金） 9：30～ 黙想とゆるしの秘跡
10：00～ ミサ司式 平賀司教
11：00～ 黙想とゆるしの秘跡
18：00 1日目終了
3月5日（土） 10：00～ 黙想とゆるしの秘跡
11：00 聖体賛美式
司式 小野寺師
12：00 終了

場所：仙台教区センター（元寺小路教会）大聖堂

子どもの祈りの集い 広瀬川殉教碑巡礼

「仙塩地区教会学校子どもの祈りのつどい・殉教碑巡礼」

震災後に始まった、「仙塩地区教会学校子どもの祈りのつどい」は、当初は年に3回、一昨年からは2回となりましたが、2月には必ず広瀬川の殉教碑への巡礼を行っており、今年で5回目となりました。まず元寺小路教会に集合して簡単な歴史の勉強をしたのち、徒歩で西公園の殉教碑まで往復して祈りを捧げ、教会に戻ってお昼ご飯を共にいただいた解散というプログラムです。一昨年からは2月11日の祝日に固定して行なっています。

今年は天候にも恵まれ、60名近い参加となりましたが、この催しに関心をもっていたいただいた大人の参加者が目立ちました。主役はも



ちろん約400年前の2月に、伊達政宗の迫害により広瀬河畔で水責めの末に殉教したカルワリオ神父様をはじめとする仙塩の殉教者ですが、つい先月に列福が決まったばかりの同時代の高山右近にもスポットを当てて勉強した後、殉教碑に向かいました。今年には地下鉄東西線も開通し、殉教碑のすぐ脇に「大町西公園駅」もできましたが、参加者は元気に徒歩で往復し、森田直樹神父様のご指導で殉教者に祈りを捧げました。

仙塩の殉教者たちが捕らえられた岩手県水沢の、カトリック水沢教会の高橋昌神父からも、つどいの成功を祈るメッセージが届けられ、たいへん励まされました。これからも2月最終日曜の殉教祭とはまた別に、このつどいを継続させていきたいと思っています。来年も2月11日に、子どもから大人まで、ご参加をお待ちしております。(元寺小路 荒賀久仁夫)

仙塩地区8教会合同の「仙台キリシタン殉教祭は、2月28日(日)午後1時30分から、同殉教碑前で開催されました。ロワゼール神父が司式とメッセージを担当し、殉教碑に献花し、広瀬川に向かって黙祷をささげました。

今回は、八木山教会と一本杉教会が準備を担当しました。

訃報

スールマリア・ヨセフ・テレシア
武藤 要子 (90歳)



聖ウルスラ修道会
1926年2月18日 誕生
1947年10月3日 受洗
1950年4月10日 入会

1953年8月31日 初誓願
1956年8月31日 終生誓願
2013年8月31日 終生誓願

2016年1月14日 帰天
誓願60周年

仙塩の聖ウルスラ学院小、中、高校、家政専門学校、また、八戸聖ウルスラ学院小学校、高校で主に国語と宗教の教師として勤務。退職後は、受洗の準備や聖書の集い等を通して教会に奉仕し、明るく忠実に宣教の使命を生きました。

スールマリア・セシリア
近藤 清野 (90歳)



聖ウルスラ修道会
1926年8月22日 誕生
1953年2月2日 受洗
1956年3月25日 入会

1959年8月31日 初誓願
1962年8月31日 終生誓願
2010年8月31日 終生誓願

2016年1月29日 帰天
誓願50周年

聖ウルスラ学院家政専門学校と八戸聖ウルスラ学院高等学校の図書室に勤務。穏やかで、笑顔で人々に平和をもたらすシスターでした。

新刊紹介



回勅 いつくしみ深い神

著者 教皇ヨハネ・パウロ二世
発行 カトリック中央協議会
定価 625円＋税

本書は、著者名を「観」になってお気づきのことと思いますが、1980年に出された回勅です。すでに、お読みなった方も多いと思いますが、なぜ、本書が文庫本の形となり、その発行日が「いつくしみの特別聖年」の開始の日と同じ日、つまり、12月8日になっているのか、お分かりいただけたと思います。

本書は、特別聖年の「大勅書」にも触れられており、改めて脚光をあびています。本書の冒頭の言葉は、『あわれみ豊かな神』をイエス・キリストは父として現してくださいます。』というものです。大勅書の「イ

編集後記

3月11日で、東日本大震災から5年になる。「仙台教区新しい創造第4期」に入る。その指針がまもなく発表されることと思います。

「忘れない」ことはもちろんですが、支援の方法もこれまでとは違ってくるのが予想されます。

平賀司教は、4月1日付で、司祭を辞職されました(2頁)。司祭減、少の中、司教様も司祭配置には、苦勞を深める良い機会かと思われま

エス・キリストは、御父のいつくしみのみ顔です」という表現現に似ていますね。

キリストにおいて、キリストとともに、キリストを通して、神のいつくしみは特に、私たちに見えるものとなりました。

しかし、旧約時代においても、イスラエルの民が神に背き、罪をおかした時にも、預言者を遣わし、神がどんなにいつくしみ深いかを語られました。いつくしみは、「神の愛の特別な力」を現すものでした。

新約聖書の「放蕩息子」のたとえ話の中には、「いつくしみ」という言葉は一つも使われていませんが、自分のしたことによって父親を傷つけ、悲しめたことに気づいた息子と、息子へ深い愛情を注いでいる忠実な父親が、愛によって抱き合う姿が現されています。

イエスの十字架と復活によって、神のいつくしみが現れましたが、そのいつくしみを現代社会ほど、求められている時代はないように思われます。

だからこそ、教皇フランシスコは、今年を「神のいつくしみの特別聖年」と宣言されたのでしょう。私たち一人ひとりが、神のいつくしみの証人となるように求められています。

各地区とも、新体制で更なる精進が望まれています。

司祭のダイヤモンド祝・金祝・銀祝が、中央協議会から発表されました(2頁)。おめでとうございませう。今後もご健康で活躍くださいませう。お祈り申し上げます。

いつくしみの特別聖年巡礼教会を紹介しました(3頁)。巡礼によって、「神のいつくしみを味わい、信仰を深める良い機会かと思われま